

4. 茨城県大津(おおつ)漁港

4-1 漁港施設用地における地下海水の取水可能性の検討

試掘場所を図4-1に示す。



図4-1 調査位置図 (S=1:25,000)²⁶

²⁶ 「地理院地図 国土地理院 <http://maps.gsi.go.jp/>」より一部抜粋加筆

(1) 地形概要

調査地付近の低地は、「土地分類基本調査 高萩・大津」(茨城県 1994)によると、里根川及び江戸上川沿いに発達する“里根川低地”に地形区分される(図4-2参照)。里根川低地の海岸は、大津港から二ツ島に至る砂浜に縁取られ、背後に砂州・砂丘地が発達し、そこに大津市街地や街道に沿う集落が立地している。砂丘地は10m以下、砂州は5m前後の高度をもち、砂州地帯の背後には低湿な後背湿地が広がっている。砂浜からなる海岸は、大津漁港の整備に伴い改変され、里根川や江戸上川の河口部の河川改修等に伴い、人工的に砂浜が拡張され、河口には導流堤が設けられている。

調査地は上記の大津漁港の整備に伴い改変された海岸及び海域であり、調査位置である西側及び東側の突堤は下に示す新旧の空中写真比較より2箇所とも海域であったことが確認でき、埋め立て地であることがわかる。



図4-2 調査地付近地形区分図²⁷

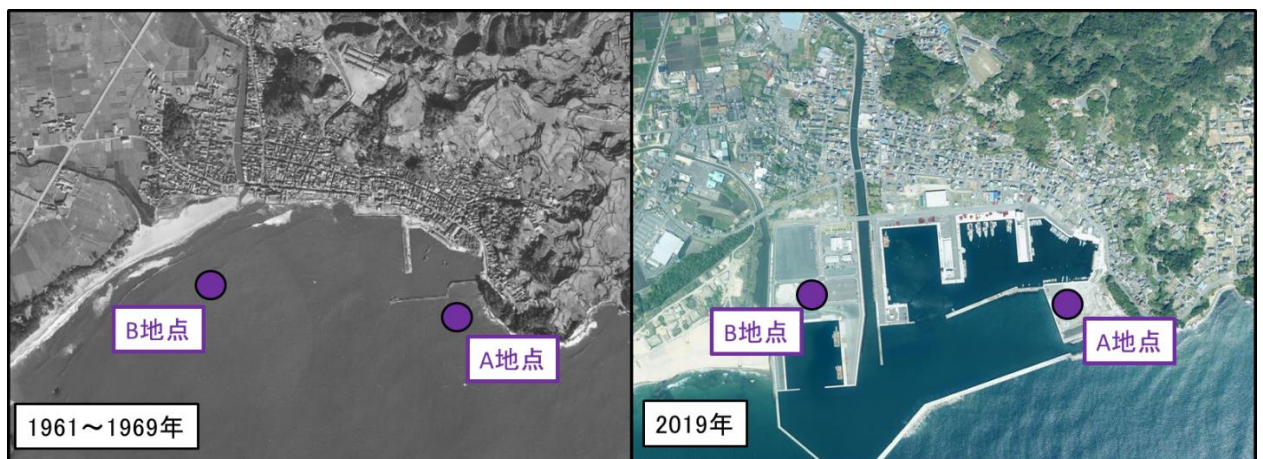


図4-3 新旧空中写真比較²⁸

²⁷ 「土地分類基本調査 高萩・大津」(茨城県 1994)より一部抜粋加筆

²⁸ 「地理院地図 国土地理院 <http://maps.gsi.go.jp>」より一部抜粋加筆

(2) 地質概要

調査地付近は、「20 万分の 1 地質図幅 白河」(地質調査総合センター 2007)においては新生代第四紀完新世の後背湿地及び谷底堆積物が分布する地域であり、礫・砂及び泥を主体とする。

本調査では、A 地点においては、2 種類の埋土(玉石混じり細砂及び礫混じり細砂)の下位に海浜堆積物の砂質土層 1 層及び多賀層群の砂岩を確認した。また B 地点においては、埋土(礫混じり細砂)の下位に海浜堆積物の砂質土層 4 層及び粘性土層 2 層を確認した。

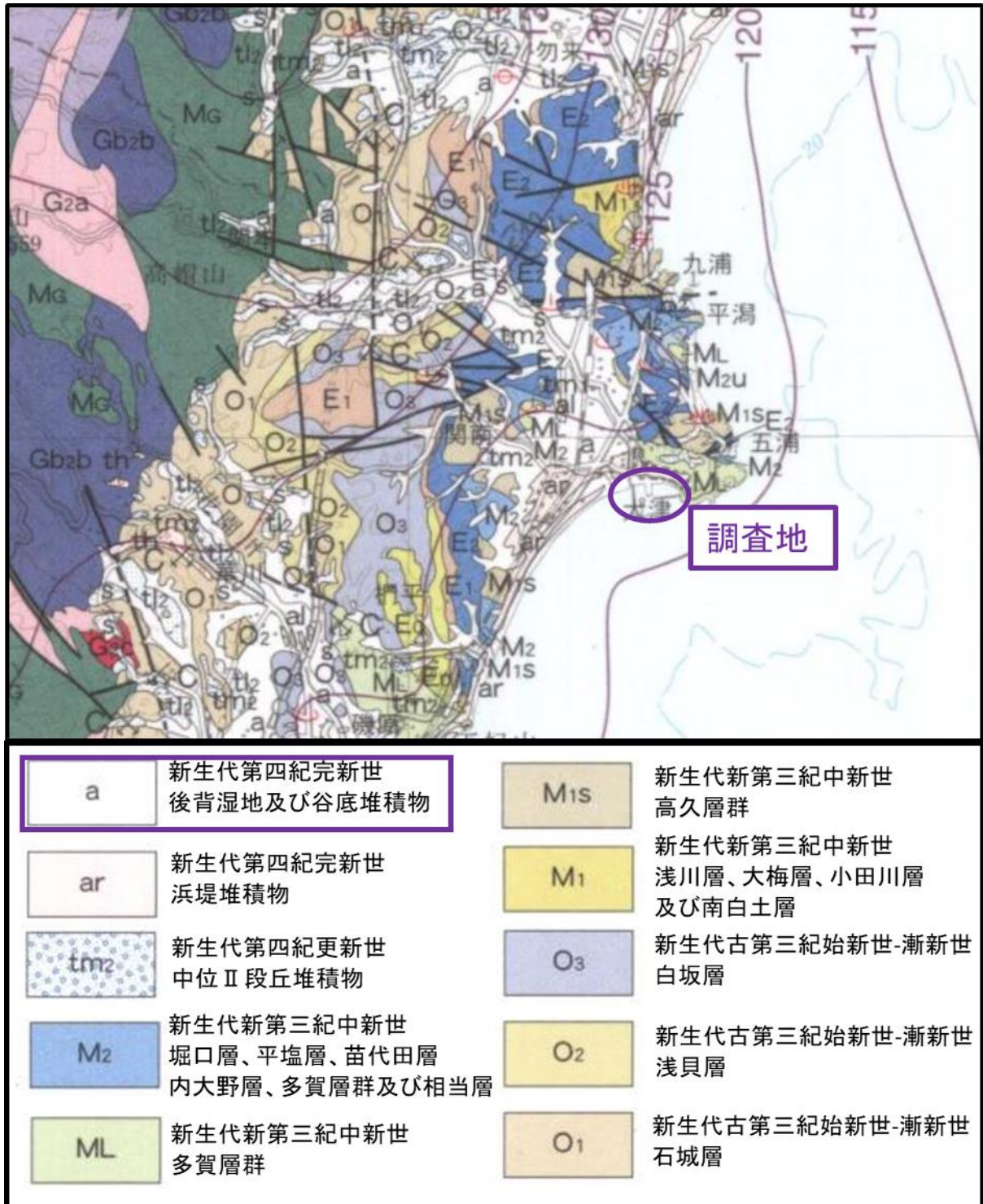


図 4 - 4 調査地付近地質図²⁹

²⁹ 「20 万分の 1 地質図幅 白河」(地質調査総合センター 2007)より一部抜粋加筆